

Ⅲ 委員会活動

医療安全管理委員会

文責／遠山和博

◎目的

医療安全は患者および医療従事者、病院関係者に関わる重要な分野である。年々病院機能における医療安全管理に求められる質・量とも増加傾向である。また、不十分な管理は病院全体を巻き込む大きな問題へと発展する可能性もあり、本委員会においては慎重かつ徹底した医療安全管理の追及を行うよう、安全対策・教育・情報収集など行っている。安全で安心な医療機関と評価いただけるような病院を目指し、運営している。

◎メンバー(2023.3現在)

医療安全管理責任者：遠山和博(委員長／診療部)

安全管理室専任者：加藤真理子(副委員長／看護部)

書記：檜貝修之(総務課)

診療部：遠山正博、長尾建樹、中基 昭

医療技術部：渡邊典子

リハビリテーション部：菅原直彦

看護部：伊藤恵美、酒和昭子、青木富士子

事務部：大木勇司、成田 薫、今井映美

佐倉ホワイエ：香取文男

◎開催日

第3月曜日、午後0時45分

◎活動報告

1. 経鼻胃管挿入後のレントゲンによる確認を徹底するため、運用方法を取り決め、周知した。
2. インシデントレポートシステムを電子化したことで、情報収集および周知が迅速に可能となった。
3. 電子カルテシステム導入に伴い、内服薬も含めた3点認証による投薬を開始した。
4. これまでの講演形式の医療安全講習会に加え、部門からの出来事報告とディスカッションのような参加型の講習会を開催した。
5. 2022年11月13日開催の千葉県看護協会第18回医療安全大会にシンポジストとして委員長が登壇し、「事例から学ぶ当院の医療安全対策」について講演した。
6. 印旛地区医療安全担当者連携会議への参加。

◎今後の目標

1. 医療安全情報の更なる周知と教育のため、医療安全管理室の院内ホームページを整備する。
2. 部門からの出来事報告と参加型の医療安全研修会を定期開催し、医療安全の知識のみならず、病院職員全体に安全への意識付けを促す。
3. 安全管理のエキスパートを招聘して、全職員への講演と我々の安全管理体制に対する客観的評価を行う機会を設ける。

院内感染対策委員会

文責／中基 昭

◎目的

病院内の感染予防のため、院内に必要なサーベイランスを行いながら、感染対策に必要な情報や技術を収集・共有し、各メンバーが情報や技術を十分取得するとともに、院内各スタッフ、入院患者、来訪者に情報を伝達できるように、マニュアルの整備、各種掲示、研修会等を充実させていく。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：中基 昭(診療部)

副委員長：高田美里(診療部)、渡邊典子(医療技術部)、榎本奈々(看護部)

診療部：遠山正博、長尾建樹

医療技術部：永井麻紀、渡邊由美子、前川名緒子、加藤佑里

リハビリテーション部：菅原直彦

事務部：大木勇司、吉井大仁、山田陽子、檜貝修之、林 隆広、松村 研

佐倉ホワイエ：清治恵子

清掃委託業者：アシストキャリアリンク(株)

◎開催日

第2水曜日、午後1時

◎活動報告

1. 院内感染の状況把握および分析、情報の管理、提供
 - ①MRSA・緑膿菌・インフルエンザ・感染性胃腸炎等を対象とし、上記感染症の定期あるいは随時レポートを作成した。
 - ②週1回、全病棟のICTラウンドを義務付けし、効率よく効果的な巡視ができるように尽力した。
 - ③新型コロナウイルス感染症の予防対策や院内発生時の院内感染防止体制の構築等の助言・指示を行い、

予防と体制作り注力した。

- ④院内の新型コロナウイルス感染症発生の予防・拡大防止のため、発熱・上気道炎症状等の職員家族に対する早期の抗原検査・PCR検査の実施や感染症発症時に休職できる体制を作った。入院患者については、発熱があれば、原則、抗原検査を行い、早めに患者を割り出した。その後は、隔離や診療対応した。

- 2. 院内および外部からの院内感染防止に関する情報の収集、整理、分析、提供

当院では成田赤十字病院ほか6病院と院内感染対策に係わる連携共同カンファレンスを行っている。主にICTメンバーが参加し、成田赤十字病院開催の研修会や院内感染に関するディスカッションを行った。

- 3. 院内職員に対する院内感染防止のための教育、研修、啓蒙活動

- ①研修会や勉強会の開催、定時および随時、必要情報の配布
- ②研修会開催

【全職員対象】

- ・「感染症の基礎知識と感染防止の基本」
- ・「感染予防に役立つ消毒・感染防止の基礎知識」
- ・「院内肺炎—嚥下性肺炎を中心に—」
- ・「インフルエンザ、感染性胃腸炎など冬季感染症の基礎知識と感染対策」

【新人対象】

- ・「院内感染の基礎知識と感染防止の基本について」(2回/年)

◎今後の目標

1. 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等、アウトブレイクの予防と早期発見、対応および早期終息できる体制作りを目指す。
2. 院内感染予防のための職員の抗体検査と予防接種できる環境を充実させる。
3. 発熱外来を実施するとともに、地域の関連病院と連携を取り、周辺の新型コロナウイルス感染症の早期収束に寄与する。

病棟運営委員会

文責／長尾建樹

◎目的

病棟内で各職種スタッフがより円滑で効率よい診療ができるよう、各部門や職種間および外来訪問部門とともに情報を共有・部門間連携を行う。

◎メンバー(2023.3現在)

- 委員長：長尾建樹(診療部)
- 副委員長：遠山和博(診療部)、伊藤恵美(看護部)
- 診療部：遠山正博、中臺 昭
- 医療技術部：渡邊典子、永井麻紀、及川野絵子、池浦あゆみ
- リハビリテーション部：菅原直彦、足立明久、佐藤 光
- 看護部：加藤真理子、中臺和枝、印南里子、篠澤慶子、青木時枝、田中香織、榎本奈々、青木富士子(訪問看護ステーション)
- 事務部：大木勇司、佐野香苗、吉井大仁、小澤智之、馬場久美子

厚生園ケアマネジメントセンター：高橋隆彦

◎開催日

第3月曜日、午後1時

◎活動状況

1. 病床稼働率、日当点、医療区分割合などの稼働状況を分析し収益上の問題点を検討。
2. コロナ禍におけるクラスター発生などに対する病棟での対策を検討し、感染拡大の阻止に努めた。
3. 病棟設備、備品に関する問題点を検討し改善に向けての施策を検討。

◎今後の目標

1. 佐倉厚生園グループおよび病棟関連部門間の協調を図り効率的で高い収益性を持った病棟運営。
2. 収支改善により機器や設備の刷新を計画する。
3. 今後、本委員会関連の会議との統合を図り、効率的で迅速な運営が遂行できる体制を構築する。

褥瘡対策委員会

文責／高田美里

◎目的

当院における院内褥瘡対策を討議・遂行し、適切な褥瘡治療の提供することによりADLを含めた全身状態の改善を図る。

◎メンバー(2023.3現在)

- 委員長：高田美里(診療部)
- 副委員長：圓城寺美佳(看護部)、藤井尚美(看護部)、

細根ふさ子(看護部)

医療技術部：永井麻紀、及川野絵子、池浦あゆみ、加藤佑里

- リハビリテーション部：大芦恵太、清水敬之、佐藤光
- 看護部：中條優子、佐野真弓、澁 妙、荒川比呂美、根本優子、永井左和子、吉田博子、鈴木智恵子、荒井勝貴、瀬戸景子、木崎よし子、小須田康子、

大野裕正、奥田真衣(訪問看護ステーション)
事務部：鈴木弘子、長谷川あこ
佐倉ホワイエ：米嶋いつ子、尾田美穂

◎開催日

第3水曜日、午後1時

◎活動報告

1. 月間発生転帰報告
2. 褥瘡回診：2023年3月より病棟回診再開
3. 褥瘡の予防対策、状態把握と評価

- ①発生リスクアセスメント
- ②褥瘡患者の評価
- ③NSTチームとの協働、栄養状態の評価
- ④勉強会の開催

4. 研修会参加

- 【院内】 看護部新人研修「褥瘡予防」
講演者：圓城寺美佳
「看護補助者業務を遂行するための基礎的な知識技術～褥瘡について・日常生活にかかわる業務、快適安心ケアについて～」
講演者：圓城寺美佳
- 【院外】 第24回日本褥瘡学会学術集会「褥瘡マネジメントの未来～新たな価値の創造」
参加者：圓城寺美佳

令和4年度看護研修会【リハビリテーション看護コース】「その人らしい生活を支えるための褥瘡ケア」

参加者：細根ふさ子、吉田博子

日本医科大学千葉北総病院スキルアップコース「褥瘡ケアⅡ」DESIGN-R®2020を用いた褥瘡の局所評価」

参加者：高田美里、圓城寺美佳、藤井尚美、細根ふさ子、中條優子、根本優子、吉田博子、大瀬健吾、大野裕正

日本創傷・オストミー・失禁管理学会「臨床スキンケア看護師認定研修」

受講中：中條優子

5. 褥瘡治療実績(2022.4.1～2023.3.31)

褥瘡件数【内訳】持込件数 38件(32人)

院内発生 23件(23人)

治癒 46件(前年度繰越8件含む)

(38人)(前年度繰越7人含む)

未治癒・死亡退院 27件(25人)

次年度繰越 6件(6人)

◎今後の目標

褥瘡ケアの正しい知識・技術の提供を継続する。NST委員会と協働し、褥瘡の早期治癒および発生予防に対して、栄養面、嚥下面からアプローチを行う。

教育研修委員会

文責／遠山和博

◎目的

- ①院内多職種職員の職務上の知識の研鑽を促し知識に精通できるように研修会を企画・実施する。
- ②医療・研究を推進し学会発表につなげる。
- ③教育・研究を通じて信頼される医療・看護の提供ができるようにする。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：遠山和博(診療部)
副委員長：渡邊典子(医療技術部)、篠澤慶子(看護部)
書記：遠藤友美(事務部)
診療部：中基 昭
リハビリテーション部：佐藤 光、足立明久
看護部：印南里子
事務部：江藤朋博、飯島智恵子、馬場久美子、高崎亜佐美
佐倉ホワイエ：平澤三枝子

◎開催日

第4木曜日、午後0時45分

◎活動報告

1. 各部署から提出された研修会年間計画のもと、日程調整を行った。事務室に設置した研修会予定表への記載を研修会主催者に依頼した。
2. 提出された研修会の開催案内を各部署への配布または職員閲覧場所へ掲示し、周知した。
3. 研修会終了後、アンケートを回収・分析し、随時研修会の開催依頼を行った。
4. 各部署から依頼された研修内容について情報収集し、講師の選定・依頼・開催まで行った。
5. 教育研修委員会主催による「新人職員研修会」を年2回(4月/10月)開催。内容は、「接遇」「医療安全」「院内感染」「就業規則」についてであった。

◎今後の目標

1. 佐倉厚生園病院職員としての質を高めるため、さらに充実した研修会を企画する。委員会内での議論に加え、病院職員から講演希望のリクエストを直接受け付ける体制を整備する。

2. 院外講師を招聘し、社会情勢に合わせた最新の情報を収集することで、学べる講演会の企画を行っていく。
3. 研修会開催情報の周知方法を見直し、電子メールによる開催情報の職員一斉送信や院内ホームページを活用した開催情報の周知を行う。

●2022年度 院内研修実施一覧表

| 番号 | 開催日 | テーマ (内容) | 演者 (発表者) | 参加者 人数 合計 |
|----|------------|--------------------------------------------------------|-------------|-----------------|
| 1 | 2022.4.4 | 看護部新人職員研修「看護部の理念・心得」 | 伊藤恵美 | 10 |
| 2 | 2022.4.5 | 看護部新人職員研修「薬について」 | 永井麻紀 | 18 |
| 3 | 2022.4.5 | 看護部新人職員研修「NSTについて」 | 永井麻紀・池浦あゆみ | 17 |
| 4 | 2022.4.5 | 看護部新人職員研修「栄養について」 | 加藤佑里 | 17 |
| 5 | 2022.4.5 | 看護部新人職員研修「感染予防の知識を理解する」 | 榎本奈々 | 16 |
| 6 | 2022.4.6 | 看護部新人職員研修「摂食嚥下について」 | 佐藤 光 | 17 |
| 7 | 2022.4.7 | 看護部新人職員研修「褥瘡予防」 | 圓城寺美佳 | 16 |
| 8 | 2022.4.8 | 看護部新人職員研修「患者の移動方法・移乗方法」 | 前田泰宏 | 17 |
| 9 | 2022.4.11 | 看護部新人職員研修「口腔ケアの必要性」 | 岸本恵美・鈴木浩子 | 16 |
| 10 | 2022.4.11 | 新人研修～院内感染～ | 中墓 昭 | 23 |
| 11 | 2022.4.12 | 看護部新人職員研修「看護倫理について」 | 印南里子 | 10 |
| 12 | 2022.4.12 | 新人研修～医療安全～ | 加藤真理子 | 25 |
| 13 | 2022.4.13 | 看護部新人職員研修「DMチームの活動」 | 藤井尚美 | 11 |
| 14 | 2022.4.13 | 看護部新人職員研修「医療安全について」 | 加藤真理子 | 11 |
| 15 | 2022.4.14 | 新人研修～就業規則～ | 原田一樹 | 25 |
| 16 | 2022.4.15 | 看護部新人職員研修「看護記録の必要性」 | 青木時枝 | 10 |
| 17 | 2022.4.15 | 新人研修～接遇～ | 伊藤恵美 | 25 |
| 18 | 2022.4.18 | 看護補助業務における感染防止 | 榎本奈々 | 17 |
| 19 | 2022.5.9 | 看護補助業務における感染防止 | 榎本奈々 | 21 |
| 20 | 2022.5.17 | コーチング | 伊藤恵美 | 16 |
| 21 | 2022.5.23 | 看護補助業務における感染防止 | 榎本奈々 | 13 |
| 22 | 2022.5.23 | 看護記録の重要性及びシステムに向けてフォーカスチャータリングからSOAPへ | 青木時枝 | 18 |
| 23 | 2022.6.3 | 夜間の緊急対応について | 山本清美・岩澤 彰 | 26 |
| 24 | 2022.6.7 | 排尿自立支援加算①算定に向けて | 菅原直彦 | 59 |
| 25 | 2022.6.10 | 看護学生を受け入れる心構え | 山本清美 | 19 |
| 26 | 2022.6.22 | 危険予知訓練 | 縣 正興 | 241 |
| 27 | 2022.6.27 | 看護補助業務に掛る感染防止 | 榎本奈々 | 21 |
| 28 | 2022.6.28 | 排尿自立支援加算②排尿ケアの介入に向けて | 細根ふさ子 | 23 |
| 29 | 2022.6.29 | 院内感染対策研修会1 感染症の基礎と感染対策 | 中墓 昭 | 252 |
| 30 | 2022.7.1 | 研究の始め方 | 印南里子 | 90 |
| 31 | 2022.7.5 | 医療チームの一員として働く看護補助者業務の理解 | 伊藤恵美 | 65 |
| 32 | 2022.7.19 | 伝わるプレゼンテーション | 菊間友晃 | 18 |
| 33 | 2022.7.27 | 看護補助者業務を遂行するための基礎的な知識技術～褥瘡について・日常生活にかかわる業務、快適安心ケアについて～ | 圓城寺美佳 | 65 |
| 34 | 2022.7.29 | 院内感染対策研修会2 医療・介護関連肺炎(誤嚥性肺炎を中心に) | 高田美里 | 194 |
| 35 | 2022.10.4 | 看護補助者との協働の必要性 | 篠澤慶子 | 82 |
| 36 | 2022.10.6 | 新人研修～院内感染～ | 中墓 昭 | 4 |
| 37 | 2022.10.11 | 新人研修～就業規則～ | 原田一樹 | 3 |
| 38 | 2022.10.13 | 新人研修～医療安全～ | 加藤真理子 | 3 |
| 39 | 2022.10.14 | 新人研修～接遇～ | 伊藤恵美 | 3 |

事務局

医学
研究
所

玉
川
病
院

玉
川
ク
リ
ニ
ック

佐
倉
厚
生
園
病
院

佐
倉
ホ
ウ
イ
エ

日
産
厚
生
会
診
療
所

| 番号 | 開催日 | テーマ (内容) | 演者 (発表者) | 参加者 人数 合計 |
|-----------------|------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------|
| 40 | 2022.10.18 | 看護補助者の制度的位置づけ | 篠澤慶子 | 83 |
| 41 | 2022.10.20 | 看護補助者業務の基本的な考え方 | 田中香織 | 85 |
| 42 | 2022.10.24 | 看護補助者との協働のためのコミュニケーション | 田中香織 | 83 |
| 43 | 2022.10.26 | 自施設における看護補助者に係る規定及び運用 | 田中香織 | 82 |
| 2022年度 看護部研究発表会 | | | | |
| 44 | 2022.11.11 | お看取りの微候の時期別特徴 | 津田萌々果 | 40 |
| | | 回復期リハビリテーション病棟における転倒対策の定期的な見直しの有効性の検証 | 印南里子 | 40 |
| 45 | 2022.11.15 | 看護記録 | 青木時枝 | 17 |
| 46 | 2022.11.17 | 看護者、介護者の基本姿勢と態度 | 印南里子 | 19 |
| 47 | 2022.11.26 | 佐倉厚生園グループ研究発表会2022年度 | 津田萌々果・印南里子・ 荒井秀章・江藤朋博・ 菅原直彦・菊池嘉志・ 蒔田 覚 | 120 |
| 48 | 2022.11.30 | 医療安全の重要性を知る | 加藤真理子 | 18 |
| 49 | 2022.12.2 | 認知症高齢者の看護ケア | 縣 正興 | 36 |
| 50 | 2022.12.6 | なぜ、栄養管理が重要?? | 永井麻紀 | 13 |
| 51 | 2023.2.4 | 第9回公益財団法人日産厚生会 医学フォーラム「私たちのSDGs」 | 公益財団法人日産厚生会 | 76 |
| 52 | 2023.2.10 | 輸液ポンプの取り扱い方 | (株)TOP 森田知樹 | 38 |
| 53 | 2023.2.22 | 生体モニターの使用法 | フクダ電子近藤知己 | 42 |
| 54 | 2023.3.10 | 人工呼吸器の取り扱い方 | 日本光電工業(株) | 24 |
| 55 | 2023.3.22 | 重症度、医療、看護必要度について | 印南里子 | 16 |
| 56 | 2023.3.23 | 夜間サポート業務について | 石井明香 | 14 |
| 57 | 2023.3.24 | 感染予防に不可欠な多剤耐性菌・感染防具・消毒の基礎知識 | 渡邊典子、 前川名緒子、榎本奈々 | 120 |
| 58 | 2023.3.24 | 夜間サポート業務について | 石井明香 | 4 |
| 59 | 2023.3.28 | 診療用放射線に係る安全管理体制について | 田代浩之 | 46 |
| 60 | 2023.3.28 | 夜間サポート業務について | 石井明香 | 6 |
| 61 | 2023.3.30 | 事例を通して安全意識を高める | 加藤真理子、成田 薫 | 102 |
| 合計 | | | | 2,661 |

サービス向上委員会

文責/渡邊典子

◎目的

当院を利用される患者、家族および職員に、よりよい療養環境の下で安心、安全、快適なサービスを提供できるよう、向上策を企画・立案して園議に答申し、医療と看護の質の向上を目指す。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：渡邊典子(医療技術部)

副委員長：田代浩之(医療技術部)

書記：田村千佳子(事務部)

診療部：吉岡千晶

リハビリテーション部：菅原直彦、田邊友美

看護部：加藤真理子、菊池美奈子

事務部：柏熊裕子、杉山暁美

◎開催日

第3金曜日 午後0時45分

◎活動報告

今年度はコロナ禍で行えていなかった患者満足度アンケートを実施し、調査結果から課題の抽出と対応を目標に活動を行った。

アンケート集計業務に人手と時間を要するため、システムを活用して集計業務の効率化ができないか検討した。Office365のRORMSを用いたアンケートの作成と集計業務の利用を検討したが、個人情報保護の観点から断念した。集計業務に関しては効率化できなかったため、アンケート内容作成部分のみFORMSを利用した。集計業務の集中を分散させるため、各部門アンケートの時期をずらして実施することとした。検診部門は2022年7月に受診者向けにアンケートを実施。回収率は94.7%であった。回復期リハビリテーション病棟は12月にアンケート用紙を郵送。回収率は25%であった。療養病棟は2023

年1月にアンケート用紙を郵送。回収率は51.4%であった。外来部門は1月24日から2月6日の間、来院者向けにアンケートを実施。回収率は97.9%であった。

検診部門や外来部門など、来院時に直接実施できる場合の回収率は高くなるが、郵送で実施した場合の回収率は低かった。入院患者からは、新型コロナウイルス感染症による面会制限のある中でアンケート調査を実施する

のは非常に厳しい状況であったものの、感謝の言葉もいただいた。今後はアンケート結果に基づき、各部署で課題を抽出し、取り組んでいく。

今年度でサービス向上委員会は終了となった(今後、職員満足度調査は衛生委員会、患者満足度調査は広報委員会へ引き継がれることとなった。)

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

NST委員会

文責／永井麻紀

◎目的

患者の栄養状態の改善を図り治療効果を高めるために、多職種が連携し、栄養障害の早期発見・早期介入を行うことで、栄養状態の早期改善を目指すことを目的としている。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：永井麻紀(医療技術部)

副委員長：高田美里(診療部)、及川野絵子(医療技術部)

医療技術部：北見紀子、岸本恵美

リハビリテーション部：佐藤 光、太田智子、石川 修、秋葉彩香

看護部：圓城寺美佳、若松香寿美、細根ふさ子、

中條優子、佐野真弓、加賀谷裕子、荻原真喜子、澁 妙、荒川比呂美、根本裕子、大野裕正、

永井左和子、木崎よし子

事務部：鈴木弘子、長谷川あこ

◎開催日

第1水曜日、午後1時

(新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による委員会開催の自粛をうけ、NST委員会は2022年8月、9月、2023年1月を休会とし、感染状況に応じてラウンドは休診した。)

◎活動報告

- ①2023年4月より「栄養サポートチーム加算」算定を開始するため、体制整備を行った。2022年11月16日より加算対象となる療養病棟入院患者に対し、プレNST加算ラウンドを開始。運用方法の検討を重ねた。
- ②日本臨床栄養代謝学会「NST稼働施設認定」の認定施設として、入院患者の栄養評価、栄養管理の指導・提言を行った。11月以降、療養病棟は週1回、回復期リハビリ病棟は月2回、栄養障害の疑われる患者に対する栄養回診・症例検討した。栄養障害の問題点を明確にし、適切な栄養療法の指導・提言を行った。また、患者限定栄養剤を使用中の患者の栄養状態の確認および継続の可否を検討・提案した。

【2022年度(11月-3月)NST回診実績】

NST回診件数：新規37人、継続18人、終了18人

療養病棟72件、回復期リハビリテーション病棟19件

- ③褥瘡対策委員会と協働し、褥瘡のある患者に対し、適切な栄養療法の提案を行った。

- ④NST勉強会を開催し、病院スタッフの栄養療法に対する知識の普及・指導を行った。

看護部主催新人研修「NSTについて」 演者：永井麻紀、池浦あゆみ(2022.4.5)

院内勉強会「なぜ栄養管理は必要？」 演者：永井麻紀(2022.12.7)

院内勉強会「栄養スクリーニング」 演者：永井麻紀(2023.2.1)

院内勉強会「体重からわかること」 演者：及川野絵子(2023.3.1)

- ⑤学会・研修会・実習 参加者

「第37回 日本臨床栄養代謝学会学術集会」(web参加)

高田美里、永井麻紀、及川野絵子、太田智子、石川修、秋葉彩香(2022.5.31-6.1)

「日本臨床栄養代謝学会2022年第1回NST専門療法士 受験必須セミナー」(web受講)

秋葉彩香(2022.5.20)

「NST実地修練研修」(聖隷佐倉市民病院)

圓城寺美佳、若松香寿美(2022.11/28,12/1,2,5,8,9)

「第12回 日本リハビリテーション栄養学会学術集会」(web参加)

太田智子(2023.1.21)

- ⑥認定資格

「TNT修了」認定機関：日本臨床栄養代謝学会 高田美里

「NST専門療法士」認定機関：日本臨床栄養代謝学会 永井麻紀、及川野絵子、太田智子、佐藤光

「認定NST研修終了」認定機関：日本臨床栄養代謝学会 圓城寺美佳、若松香寿美

- ⑦NST教育セミナー研修受講終了

「NSTセミナー」開催機関：日本病態栄養学会 圓城寺美佳

◎今後の目標

- ①2023年4月から「栄養サポートチーム加算」を算定し、適切な栄養サポートを実施する。
- ②日本臨床栄養代謝学会の「NST稼働施設認定」の継続を目指す。
- ③栄養障害の早期発見・NSTの早期介入を行うことで、栄養状態の早期改善を目指す。
- ④褥瘡対策委員会と連携を図り、治療効果を上げる。

- ⑤積極的に栄養に関する学会や研修会に参加し、NST委員の知識の向上を図る。
- ⑥院内研修会や勉強会を定期的に開催し、病院全スタッフの栄養療法に対するモチベーションとスキルアップを目指す。
- ⑦NSTに関する研究介入を行い、成果をまとめ、学会等で発表を行う。

その他委員会・会議

| 会議・委員会 | | | | |
|---------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 名称 | 委員長 (所属部署) | 目的 | | 開催日 |
| 収支改善経営会議 | 長尾建樹 (診療部) | 佐倉厚生園グループの収支状況を分析し増収に向けての問題点を明らかにした上で改善の方策を検討する。 | ・佐倉厚生園グループの責任者と小川経営コンサルタントによる増収策、経費削減策の検討。 ・コロナ禍におけるクラスター発生などに対する収支面から見た対策や、高騰するエネルギー費用等の削減策を検討した。収支改善案の策定を行い、実施状況の監督を継続した。 | 第4月曜日 |
| 院内連絡会 | 長尾建樹 (診療部) | 全職員に院内重要連絡事項を漏れなく伝達する。 | ・佐倉厚生園病院に加え、厚生園グループ(佐倉ホワイエ、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所)の責任者が集まり、病院の基本的経営方針や伝達事項を職員全員に伝達した。 ・各部署からの連絡事項を伝達した。 | 第1月曜日 |
| 診療会議 | 長尾建樹 (診療部) | 佐倉厚生園病院の診療に関する委員会から活動報告を受け、検討・統括する。 | 所属各委員会から活動報告を受け、診療活動の適正を検討した。 | 第1月曜日 |
| 病院機能推進会議 | 長尾建樹 (診療部) | 病院機能向上に関する各委員会から活動報告を受け、協議する。 | 所属各委員会の活動を通して、病院の機能向上の取り組みを協議した。 | 第1月曜日 |
| 医療事故・異状死調査委員会 | 遠山和博 (診療部) | 医療法に基づき、当院に勤務する医療従事者が提供した医療に起因または起因すると疑われる死亡であって、病院長が当該死亡を予期しなかったものについて、その原因を明らかにするための調査を行う委員会である。 | 2022年度においては上記に該当する事案の発生はなかった。 | 随時 |
| 医療ガス安全管理委員会 | 檜貝修之 (事務部) | 医療ガスの安全かつ適正な使用に向け、体制整備を行う。 | 医療ガスパイピング 年次点検実施 | 随時 |
| 災害対策委員会 | 大木勇司 (事務部) | 設備の老朽化に伴う防災設備の更新。 各部署における防火・防災対策を横断的に行い、有事の際、適切に対応できるよう整備する。 | ・自家用受変電設備および直流電源装置の更新の実施 ・防災訓練の実施 | 随時 |
| 倫理委員会 | 長尾建樹 (診療部) | 医学研究所所長より諮問された、ヒトを対象とする医学研究および医療行為などについて、ヘルシンキ宣言(1964年採択および2013年世界医師会フォルタレサ総会での修正)の趣旨に沿って、かつ、臨床研究に関する倫理指針(厚生労働省)等に準拠し審査を行う。病院長の諮問機関として当院の倫理の質を向上させ、且つその水準を高く維持する。 | 病院長に厳正な判断を促すための正確な情報や考え方の提供を行っている。 | 年3~4回 |

| 会議・委員会 | | | | |
|------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 名称 | 委員長 (所属部署) | 目的 | 活動報告 | 開催頻度 |
| 医学研究推進会議 | 遠山和博 (診療部) | 院内各部署から研究テーマ提出を促し、会議内外で積極的なサポートを行う。また、医学研究所より配分される研究費を予算内で効率的に活用できるように検討する。その他研究活動に関わる議題について自由討議を行う。 | 会議での議論に加えて、各部門の研究担当者と個別に研究内容についてのディスカッションや研究計画書作成のサポートを行い、各種学会・講演会での発表につなげた。論文作成指導などを行い、投稿支援を行った。 | 第2金曜日 |
| 排尿自立支援委員会 | 菅原直彦 (リハビリテーション部) | ・入院患者の排尿自立を支援し、患者のQOL向上に寄与する。 ・下部尿路機能障害に対し早期介入し、適正使用でないカテーテル留置をなくす。 ・院内のスタッフの排尿ケアに関する知識、技術の向上に寄与する。 | 排尿ケアチームを構成。病棟の看護師と協働して患者の排尿自立に向かって、包括的排尿ケアを行っている。 | 第3木曜日 |
| 薬事審議委員会 | 渡邊典子 (医療技術部) | 医療を行う上で必要な医薬品、血液製剤等の情報を提供し、医薬品の適正使用の推進と診療の質の向上を図ることを目的とする。 | ・医薬品安全対策情報に基づいた添付文書改訂情報の提供を行った。 ・供給不足の医薬品について情報提供を行った。 ・院内採用医薬品について検討を行った。 ・電子カルテ運用開始に伴い、処方入力関連事項について各部署と協議した。 | 第2月曜日 |
| 外来運営委員会 DMチーム | 長尾建樹 (診療部) | ・外来診療における業務の効率化および患者の利便性、感染予防対策の徹底など患者本位の安全で安心な環境づくりを図る。 ・疾病予防、健康増進のため、予防接種や健康診断、新興感染症に対する外来診療体制を整備し、DM患者に向けたDM教室開催などを通して地域における公衆衛生活動に貢献する。 | 外来患者の増加を目指すための方策を検討した。 | 第2火曜日 |
| 臨床検査適正化委員会 | 前川名緒子 (医療技術部) | 検体検査における重要事項を審議し、管理運営の適正化を図る。精度管理の確認および院内関連部署と検査室、双方からの要望、変更改善事項などを検討し報告する。 | 精度管理の確認、検査機器メンテナンスを行い、検査項目の変更等について周知した。オーダーリング開始に伴い、各検査の依頼方法と結果報告について関連部署と話し合い、報告をした。 | 第3金曜日 |
| ドック健診委員会 | 吉岡千晶 (健診部) | 充実した医療サービスの提供を検討し、ドック健診業務の効率的な運営を図る。 | 健診の運営に関する事項について、関係各部署代表者が集まって検討し、決定した。 | 奇数月 第4火曜日 |
| 保険査定返戻検討委員会 | 中基 昭 (診療部) | 毎月の支払基金からの査定返戻事例をもとに、保険診療上の問題点を検討する。 | 保険請求上、保険医として円滑で正確な診療の実施を目指した。 | 第3月曜日 |
| 診療録管理委員会 | 山田陽子 (事務部) | 診療記録の適切な記録と管理を円滑に行うために、診療情報管理に係る諸問題を審議する。 | 電子カルテ導入に伴い、入院計画書等の書式や診療録管理に関する院内規程の見直し等を行った。 | 偶数月 第1水曜日 |
| 診療記録録等開示委員会 | 遠山和博 (診療部) | 外部より診療録の開示要求があった場合、その要求の正当性を審査するとともに個人情報保護を確保し、開示に応ずる。 | 今年度は事例がなかったため開催しなかった。 | 病院長招集時 |
| 個人情報保護推進委員会 | 遠山和博 (診療部) | 職員に対し個人情報保護についての教育を実施し、個人情報が漏洩しないシステム作りを構築することを目的とする。 | 電子カルテ導入による個人情報管理規定の改訂作業を行った。定期的な個人情報保護関連の教育を行った。 | 年3~4回 |

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

| 会議・委員会 | | | | |
|--------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 名称 | 委員長 (所属部署) | 目的 | 活動報告 | 開催頻度 |
| 栄養給食委員会 | 及川野絵子 (医療技術部) | <ul style="list-style-type: none"> 嗜好調査に基づき患者の食事の改善を図る。 安心安全な食事を提供し、栄養状態の改善を図る。 経腸栄養剤、栄養補助食品の見直し。 | <ul style="list-style-type: none"> 2022年6月から電子カルテシステムが開始されたため食種等の設定の見直しを行った。平行して栄養管理システムの導入の検討を行った。 褥瘡委員会とともに対象者に対する治療、予防のための栄養管理を検討・実施。 経腸栄養剤バック化に向けて検討を行った。 | 第3水曜日 |
| 広報・ホームページ運用委員会 | 檜貝修之 (事務部) | 当院の利用者に対し病院が行う内容を明示し、当院への受診を促すとともに、地域連携、患者教育に役立てた情報交換の場を提供する。 | 院内および院外に当院の情報を発信した。 | 第4金曜日 |
| システム管理 (電子カルテ) 委員会 | 遠山和博 (診療部) | 院内の電子・通信機器を用いた環境整備・保守に関して会議を行う。また、それらの運用方法について各部門の委員と議論し、決定していく。導入した機器・環境およびその運用方法について、病院職員に周知・教育を行う。システム改善の要望について広く収集を行い、継続的な改善を行っていく。 | 2022年6月に電子カルテシステム導入を実施した。前後にシステムの仕様について電子カルテ制作会社のワイズマン社員との会議を繰り返し行い、仕様を決定した。各部門からの委員と運用方法の議論を継続的に行い、電子カルテの稼働を行っている。 | 第3木曜日 |
| グループ連携 委員会 | 成田 薫 (事務部) | 佐倉厚生園病院グループが目的とする事業の遂行並びに本邦で推進されている地域包括ケアシステムに対するグループ内施設の有効活用と各施設の経営安定化。 | 各グループにて得た各種情報の共有と諸問題の検討を行い、有意義な成果を上げてきた。来年度以降は各施設から積極的な発言と提案を行える会議へのバージョンアップを予定している。 | 偶数月 第1月曜 |
| 衛生委員会 | 大木勇司 (事務部) | <ul style="list-style-type: none"> 職員の健康保持増進、労働災害の防止に係る対策を検討する。 労働安全に係わる諸規定の整備、相談窓口の充実化、ストレスチェックの実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 院内巡視の実施 7月 ストレスチェック実施 10月 ラインケア研修(ビデオ学習)開催 | 第3月曜日 |
| 予算委員会 | 長尾建樹 (診療部) | <ul style="list-style-type: none"> 医療経済環境および過去の実績を基に収入目標を決定。 きめ細かな収支状況を把握することで、安定した病院収支に向け柔軟な対応を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 医療材料や医療機材の購入・更新、施設改修などの設備投資、人材登用などによる支出を審議し、次年度予算を策定した。 年度半ばにおいて上半期の収支を分析し、補正予算を組んだ。 | 委員長招集時 |